

大西先生には、学部生での講義、大学院生になってからは研究室の学生として研究面で、大変お世話になりました。

学部生で大西先生の講義を受けたときの印象は、ロジックに無駄が無く、とてもスマートに講義をされる先生、でした。「すごく頭の良い先生なんだな」と感じたことを覚えています。今でも覚えていることは、試験で出題されたフーリエ変換について、なぜこれを勉強しなければいけないかわからなかったため、解答用紙の裏に「なぜフーリエ変換を勉強するのですか？」と質問を書いたところ、大西先生からは「今にわかります」という返事を頂きました。「時間がかかっても、自分で理解しなさい」というメッセージだったのではないかな、と自分なりに解釈しています。今、自分が大学で(学部は異なりますが)、学生にフーリエ変換を教えており、やはり学生から同じような質問をされるたびに、大西先生とのやりとりを思い出します。

大学院生のときの思い出は沢山ありますが、大西先生が仰っていた言葉でとても覚えているのが、色々な研究をされるときに「可能性はゼロではない」というものです。私はその言葉に、新しいことを初めて、それを形にして周囲の人を納得させるまでに仕上げる大西先生の信念を感じました。現在、がん治療に関わる仕事をしていますが、少しでも治療の技術が進むよう、微力ながら自分のできることを行っていきたいと思っています。

大西先生、どうぞやすらかに眠りください。

黒河 千恵 (順天堂大学)